



別紙様式1 (会派研修用)



研修事前計画書

令和元年12月5日

精華町議会

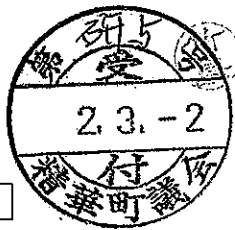
議長 三原 和久 様

会派 爽風会

代表 安宅 吉昭

下記のとおり、会派研修を計画しましたので報告するとともに、承認願います。
記

1. 研修先名	令和2年2月4日(火)神奈川県 南足柄市 市民協働課 2月5日(水) 地方創生EXPO特別講演 (幕張メッセ)
2. 研修の目的	南足柄市 市民協働課「協働のまちづくり」の取り組み ①共存・協働のまちづくり推進条例の制定の経緯 ②推進するための仕組み、成果と課題等 地方創生EXPO特別講演 ①まちづくりとスマートシティの将来像 有識者会議委員 増田 寛也 氏 ②地域活性化事例紹介・食農のまちづくりの実現に向けて ・IOTによる子ども・高齢者見守り
3. 研修の日程	9:47 近鉄 JR新幹線 伊豆箱根鉄道 2/4 新祝園駅 → 京都駅 → 小田原駅 → 大雄山駅 14:00~15:30 伊豆箱根鉄道 JR JR新幹線 → 南足柄市役所 → 大雄山駅 → 小田原駅 → 有楽町駅 → ホテルユニザ銀座1丁目 8:30 JR京葉線 2/5 ホテルユニザ銀座1丁目 → 有楽町駅 → 海浜幕張駅 9:30~14:00 JR京葉線 JR新幹線 近鉄 17:17 → 幕張メッセ → 海浜幕張駅 → 東京駅 → 京都駅 → 新祝園
4. 研修に係る 予定経費等	交通費 31490円×4 = 125960円 宿泊料 11736円×4 = 46944円 手土産代 3300円×1 = 3300円 合計 176204円
5. 研修参加者	爽風会 ^{あたぎ} 安宅 吉昭 森田 喜久 村田 周子 山下 芳一



議長	
	澤田 岡本

別紙様式3 (会派研修用)

会派研修報告書

令和2年2月28日報告

編纂種別	議長	副議長	委員長	会派代表者		事務局長
議員研修 (委員会・会派)						
回覧						
報告者	爽風会 会派代表 (氏名) 安宅吉昭  印					
標 題	協働のまちづくり視察及び地方創生にかかる 研修について					
研 修 日 時	自 令和2年2月4日(火曜日) 9時45分から 至 令和2年2月5日(水曜日) 17時15分まで					
研修場所	令和2年2月4日(火) 神奈川県 南足柄市 市民協働課 2月5日(水) 地方創生EXPO特別講演(幕張メッセ)					
主 催						
参 加 者	安宅 吉昭、森田 喜久、村田 周子、山下 芳一					
内 容						
上記のとおり管外研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。						
記						

○ 研修の目的（計画・事前の資料等）

◎南足柄市 市民協働課「協働のまちづくり」の取り組み

①共存・協働のまちづくり推進条例の制定の経緯

②推進するための仕組み、成果と課題等

◎地方創生E X P O特別講演

①地域活性化事例紹介 ・食農のまちづくりの実現に向けて

・ I O Tによる子ども・高齢者見守り

②まちづくりとスマートシティの将来像

有識者会議委員 増田 寛也 氏

○ 研修参加者のレポート

別添のとおり

○ 研修報告書

南足柄市 「協働のまちづくり」の取り組み

南足柄市 市民協働課長 月村 均氏

①南足柄市自治基本条例（H22. 6. 21 公布、同年 10. 1 施行）について

・ 3つの原則「情報共有の原則」「参加の原則」「協働の原則」

・ まちづくり基金の設立

・ 公募の 12 名により「自治基本条例づくり市民会議」が設定され、25 回の審議後に素案作成後、パブコメ、市民集会を実施して、議会に提案

・ 議決決定後に関連条例等の制定

市民活動保険制度要項、市民活動推進条例、市民活動推進条例施行規則、公益的市民活動助成金交付要綱 等

②南足柄市市民活動推進委員会の活動効果について

- ・本委員会は、公益的活動助成金の事業認定や報告認定を中心に活動し、団体の維持、継続、発展のための助言
- ・活動の指針となる 11 分野に及ぶ「活気ある元気なまちづくりガイドライン」を 2017 にまとめ、広く市民に周知

③「協働のまちづくり通信」について

- ・2018 年 8 月に発行をはじめ、月 1 回のペースで、現在 18 号の発行
- ・人材や団体の紹介、ボランティア団体の変更や登録等お知らせ
- ・市民協働課が、市民活動団体、大学、南足柄みらい創りカレッジとの関係づくりに活用
- ・市職員、議員にもイントラネットで通信が発行されて、情報を共有化している

④「市民活動ガイドブック」発行の経緯と効果について

- ・H7 に「南足柄市生涯学習推進プラン」を策定、H8 から「市民活動ガイドブック」を発行
- ・内容は、生涯学習活動紹介、会員募集、各種関連情報
- ・ガイドブックは毎年 340 部発行し、市ホームページでも公開
- ・効果の検証はしていないが、掲載団体と市の担当課との連携に活用

⑤「人材バンク」「団体・サークル」「ボランティア団体の情報収集とフォローについて

- ・毎年 2～3 月にかけて、社会教育施設に募集チラシを配架し、市ホームページにも掲載、随時の情報更新、及び問い合わせ対応での支援

⑥「地域づくり交付金」助成事業について

- ・H24 年度の 9 団体 500000 円の助成に始まり、R 元年度までに延べ 27 団体に 3176000 円の助成
- ・市民の草の根ボランティア団体を市が認め、支援することで、活動する人の意欲と活動の質が向上

- ・助成後、ボランティア事業の拡大、団体間の連携、市との連携事業への発展等の成果

⑦ 爽風会と活動団体との交流

南足柄ジオガイドの会代表植田勇次氏（南足柄市の自然・環境ガイド）

スマイルフォト 代表碓井一海氏（葬儀用の生前写真を提供）

- ・活動が市民に周知されている。
- ・団体メンバーが活動に魅力と意義を感じている。
- ・初期に助成金を活用したが、その後、活動資金には困っていない。
- ・会員の高齢化が課題である。80歳代の会員もいる。
- ・市との連携がとれている。

⑧ 「南足柄みらいカレッジ」について

- ・市民と共に産官学が協働し地域課題の解決と地域活性化に取り組む組織
- ・H29.5に「南足柄みらいカレッジ」設立
- ・横浜大学、企業、公益財団、社会福祉法人、郵便局等公的機関等と連携
- ・将来的には、地域運営の母体となる組織を目指す

第3回 地方創生 EXPO

令和2年2月5日(水) 10:00～11:00 地方活性化事例紹介

全農を起点とした街づくりの実現に向けて

(株)NTT アグリテクノロジー 代表取締役社長 酒井大雅氏

- ・農業従事者 1985年 350万人 → 2015年 175万人

(農業)法人経営体数 1985年 0.3万 → 2015年 2.3万

一次産業分野の協働事例が多くなっている

【例】山梨市 … JA、自治体、企業が一体

- ・農家の営農・省力化を支援、ハウスブドウ園が豪雪で崩壊、シャインマスカットで再生

・ Synaptech NTT 東日本・ JA フルーツ山梨・ 市役所の協働

IoT サービス、気温・ハウス温度等をスマホで管理、計測データを蓄積して活用

・ E センシング IoT センシングで農業センシング、ブドウの盗難防止防災対策

【例】木更津市

・ 産官学連携で鳥獣対策がスタート

木更津市、高専、農家、NTT 東日本、地元猟師

スマホで映像を映し、クラウドで判断

○農業の未来…大規模化で「高い生産性」「持続可能な農業」の実現を目指して

国も次世代施設園芸分野に着目、IoT やロボティクを導入し、ハード面だけでなく、労務・生産管理等の仕組みもトータルで考える

【寝屋川市】 IoT で実現する子ども・高齢者の見守り事例

寝屋川市情報推進課 羽根基博 氏

廣瀬市長 人口減に鑑み、人口年齢構成のリバランスの必要

市民サービスの危機 都市インフラの危機

目指すところ 若い子育て世代を見る 時間と〇〇の短縮

①ICT・IoT、②窓口改革、③公共機能のターミナル化

市役所組織のリニューアル 8時～8時

①職員の完全フレックスタイム制導入、②窓口開庁時間の延長、③接客プロフェッショナル採用

【活動事例】 ネットワークシステム Sigfox とは

京セラコミュニケーションシステム(株)LPWAソリューション事業部

副部長 大木 浩 氏

特徴としてローパワーでエリアはワイド、よって、低消費電力で電池仕様となり工事が不要、低価格 100 円/年 簡便性 グローバル化

※公共機能のターミナル化ができる！

①IoT で子どもの安全安心

構成：GPS 端末+スマホ+LP、小学 1・2 年生に GPS 端末 LPWA・ネットワーク…

エリア設定でエリア内に入った時、外に出た時を親のスマホに情報提供

②土砂崩れの監視

釘を傾斜地に打ち込んで 揺れたときの情報を LPWA で行政→市民

③水位センサー、人感センサー

④特別支援学校 送迎バスの位置通知 6 学校, 43 台バス, 500 人保護者

⑤AI ドア開閉検知システム

入居者の見守り、ドア開け閉めで高齢者の元気

⑥落石監視システム

⑦スマートオイルセンサー

⑧防犯カメラ本体 (R2, 4 に H 市が 354 台設置)

第 3 回 地方創生 EXPO

令和 2 年 2 月 5 日 (水) 12 :.00~13 : 00

人口減少社会に対応した、まちづくりとスマートシティの将来像

元総務大臣 まち・ひと・しごと戦略有識者会議委員 増田寛也氏

地域創生第 2 期スタートにあたり日本の将来を展望する。

出生数が 90 万人を切った。増やすには時間がかかる。その間にやるべきことは。テクノロジーの進化、ライフスタイルにも関わる人口減少を乗り切っていく。

(1) 近年の変化

- ・国土構造の変革、人口減、意識の変化、気候変動、地球環境問題の深刻化、デジタル経済圏の拡大、新技術、ライフスタイルの変化、自然災害のリスク

(2) 2040 年への日本の課題 (7つのうちの3つは)

- ①人口減少、少子化、高齢化 ②新技術・ライフスタイルの変化
- ③国土構造の変革

人口移動の状況

これまで3度、地方から都市、特に東京への人口移動、2019年、東京には14.8万人が増えている。東京圏一極はなかなか止まない。

都市部に人が集まることには、利点もあるが課題が大きい

年代は20~24才(就職)15~19才(進学)で90%近くが30才まで

(3) 地方創生のテーマ

- ①持続可能性(サステナビリティ)の視点で人材雇用、地域・まちづくり、税制・社会保障等総合的な検討
- ②技術の進化・テクノロジー
- ③ビジョン策定
- ④時間軸を持ち、日本全体を俯瞰しながらの検討
- ⑤悲観論も楽観論もダメ!現実を直視、ソサイアティ5.0の社会の実現...IoT、ビッグデータ、AIなどの活用

(4) コンパクトシティ まちの周辺は大変になる

- ・日本の中でコンパクトシティをどのように形成するのかという合意形成は難しい

(5) まち・ひと・しごと創生法(2014.11)

- ①人口減少に歯止め 出生率21.8(全国)目標
- ②東京圏への集中是正 →2020年に東京圏を救済
- ③地域で住みやすい環境 地方に仕事づくり、コンパクトなまちづくり

(事例)

- ①松江市 都市の外延化 1960年 16.8万人、2010年 20.9万人、2040年 16.8万人、
中心部はいいが、周りは衰弱化→米子市とのネットワーク
- ②宮崎市 中心部の空き店舗・空き地の拡大 →コンパクト化
- ③輪島市 ・サービス付き高齢者住宅・グループホーム・ショートステイ等も周辺部
から市の中心部にして、女性・高齢者・障がい者を含む居場所と役割の
あるコミュニティづくり

・外国人材の活躍と共生社会に対する支援制度
- ④2040年の単身世帯…東京 48.1% 京都 42.5% 65才以上の単身世帯 東京
45.8%、大阪 44.8%とコミュニティをつくるのが困難なっている

(6) ソサイアティ 5.0 時代

- ①地方へのひと・資金の流れを強化する
- ②新しい時代の流れを力にする…暮らしが大きく変わる可能性がある

- ・技術 自動運転、ドローン
- ・観光 多言語
- ・セキュリティ
- ・医療 どこでもドクター・・・遠隔医療の効果 がん治療

テクノロジー活用での「ダヴィンチ」遠隔手術

- ・教育 パノラマ教室、パソコンやクラウドの活用
- ・自治体 どこでも手続き

このようなことで、地域(地方)が満足できる面も多くなってくる

(7) コンパクトシティ …周りの人は移らねばならない

- ・テクノロジーでサービスを満足させる
- ・地方起業にもプラスに
- ・移動のハンディの問題→ 自動運転で解決されることに、モビリティの選択

(カーシェアー)

- ・地方が良くなることを考えていく、自分たちのリソースを活かして進める
- ・ダビンチ(遠隔医療の一種)等のテクノロジー活用

(8) 地域創生…危機意識が低い、首長のリーダーシップにばらつきがある

どうすれば、地域が良くなるかを考えていかなければならない

- ・女性の活躍、外国人も地域で活躍する、地方・起業・まちづくりに
- ・プチ東京にしないで地方創生の担い手を育てる、良さを伝える・見せる、テクノロジーを活かす
- ・コンパクトにテクノロジーを！、地方のハンディを避ける
- ・しがらみ、横並びを壊す
- ・地域が変わることは難しい、しかし変わらねばならない

(9) 最後に 世阿弥

「初心を忘るべからずとは、恐れず変化し続けなさい」という教え

○ 所感

(1) 南足柄市「協働のまちづくり」

- ①「自治基本条例」の制定は市民・行政・議会の連携により、新時代の協働のまちづくりの基礎となり、広く企業や大学などにも協働の連携に呼び込み、オール南足柄市のスタイルを形成し積み上げられていることは最高である。
- ②「市民活動ガイドブック」により、人材バンク・ボランティア団体の紹介など大事な情報が市民に公開され、誰でもいつでも参画できるよう呼びかけされていることは素晴らしいことである。
- ③「協働のまちづくり通信」が毎月活動団体の活発な活動内容を積極的に発行されていて、関心を持つ多くに市民にタイムリーな情報発信され、各団体の連携するにつながら働きを発揮していることを評価したい。
- ④「市民活動センター」としての市民協働課のロケーションは市役所に近い市中心部

駅前の利便性の高い位置にあり、すべての市民活動団体へのサポートを提供されている。やはり活動支援のセンターは必須の要素である。

- ⑤「市民ボランティア活動」の代表の方々の生の活動事例を伺ったが、市民への箱根ジオラマへの案内、市民への記念写真提供という「魂の入ったボランティア」の活動は、生涯現役の典型として感動をいただいた。

(2) 地方創生E X P O特別講演

①全農を起点とした街づくりの実現に向けて

- ・ Sigfox でハウス栽培においてスマホで管理したり、農業センシングや盗難防止や防災対策への適用、さらに労務・生産管理のしくみにも威力を発揮させるという先進事例は大いに学びとりたい。

②IOT で実現する子ども・高齢者の見守り事例

- ・ GPS とスマホを繋いで小学1・2年生の位置情報をつかむ、エリア設定により内に入ったとき、外に出たときの知らせを親のスマホに提供して見守るという事例である。この効用は大きいので学びたい。

③まちづくりとスマートシティの将来像

- ・ 人口減少時代においてはコンパクトシティの形成の効果は大きい、中心部に移動するというのは抵抗もある。医療はどこでも、教育はパノラマ教室、自治体への手続きはどこでもできるというテクノロジーでサービスを満足させるという視点でカバーしていく手法であるという話は説得力がある。

○ 研修先での入手資料等

別添のとおり

研 修 報 告 書

令和 2 年 2 月 2 4 日

爽風会

代表 安宅 吉昭 様

爽風会

森田 喜久

下記のとおり、研修に参加しましたので報告します。

記

1. 研 修 先 名	(1) 2月4日(火) 南足柄市「協働のまちづくり」 (2) 2月5日(水) 地方創生 EXPO 特別講演(幕張メッセ)
2. 所 感	(1) 南足柄市「協働のまちづくについて」 ①包括連携協定の実施 (1)産・学・官(公)・民による協働のまちづくり ・企業・教育機関・市民団体等と包括連携協定を結んでいる。 ・大きな協働事業には天狗のこみちマラソン in 南足柄などがある ②「市民活動ガイドブック」により、人材バンク・ボランティア団体の紹介など大事な情報が市民に公開され、ガイドブックに掲載されている団体とその活動に関連する市の担当課が連携していくための情報共有にはなっている。又市民活動を応援する「地域づくり交付金助成金」がある ③「協働のまちづくり通信」が毎月活動団体の活発な活動内容を積極的に発行されていて、関心を持つ多くに市民にタイムリーな情報発信され、各団体の連携につながる働きを発揮している。 ④「市民ボランティア活動」の代表の方々の生の活動事例を伺ったが、市民への箱根ジオラマへの案内、市民への記念写真提供というそれぞれに活動されている一部の団体の紹介を頂き皆さんの話を聞いてボランティア」の活動は、生涯現役の典型として感動をいただいた。 (2)地方創生 EXPO 特別講演 ①全農を起点とした街づくりの実現に向けて ・Sigfox(シグフォックス)とは低価格・低消費電力・長距離伝送を特長とした、グローバル IoT ネットワークです。このようなシステムをもちいてハウス栽培においてスマホで管理したり、盗難防止や防災対策への運用などができる ②IOT で実現する子ども・高齢者の見守り事例 ・GPS とスマホを繋いで小学1・2年生の位置情報をつかむ、エリア設定により内に入ったとき、外に出たときの知らせを親のスマホに提供して見守るという事例である。この効用は大きいので学びたい。 ③まちづくりとスマートシティの将来像 ・人口減少時代においてはコンパクトシティの形成の効果は大きいですが、中心部に移動するというのは抵抗もある。医療はどこでも、教育はパノラマ教室、自治体への手続きはどこでもできるというテクノロジーでサービスを満足させるという視点でカバーしていく手法であるという話は説得力がある。

- ・人口減少時代において対応していくためには、地域が変わることは非常に難しいがしかし変わらねばならない

世阿弥の言葉に

「所信わすれべからずとは、恐れずに変化し続けなさい」という教えであるとの事。本当に大事なことだと思っている。

研 修 報 告 書

令和 2年2月20日

爽風会 代表
安宅 吉昭様

(研修参加者)
(氏名) 村田 周子

下記のとおり、研修に参加しましたので報告します。

記

1. 研修先名	
2. 研修の目的	
3. 研修内容 (ヒヤリング内容を記載)	
4. 所 感 (個人的な感想・ 本町への応用等)	南足柄市 市民協働課「協働のまちづくり」の取り組み ・ 南足柄町は人口が本町より少し多いが、産・学・官・民による協働のまちづくりはとても優れて進んでいる。総括連携協定を結び「南足柄みらいカレッジ」実施している 例えば、 ① セブンイレブン各店舗に広報誌を置いてもらったり、住民の徘徊者の通報などをしてもらっている。 ② あいあいニッセイに、「男女就活セミナー」などに講師の派遣をもらっている。 ③ 郵便局にはふるさと納税の返礼品、ステッカーを貼ってもらったりしている。 本町で今、可能な事は、① ②であり、すぐに計画して、実行でくる。 ・ 4万2000人全町民にボランティア保険をかけている。 (市が認めた活動のみ保険料がおりてくる) 本町もボランティア活動をしている団体には、ボランティア保険

をかけているが、全町民にかけることは、今後の課題

- ・市民の草の根ボランティア団体を市が認め、支援することで、人の意欲と活動の質が向上している。

本町もボランティア活動を支援しているが、延 5000 人の方々、167 団体の京都府からの助成金の内訳、何団体がもらえているかを把握し、ボランティア活動の見える化をする必要がある

- ・爽風会と活動団体との交流は、ボランティア活動団体と市との連携がとれていること、活動が市民に周知されていること、近隣の市などとの連携等は本町も積極的にすることが望まれる。

第3回 地方創生 EXPO

全農を起点とした街づくりの実現に向けて

- ・木更津市の産官学連携で鳥獣対策はスマホで映像を映し、クラウドで判断、また、大規模化で「高い生産性」「持続可能な農業」の実現を目指している。本町も産官学連携で農業の方向性を見出して、農産物のブランド化を早急に行っていかなければならない。
- ・寝屋川市の IOT で実現する子ども・高齢者の見守り事例は ICT・IOT などを導入して、子供たち・高齢者を見守っている。このことは住民の安心安全を守るためにも重要であり、子育て世代にとっても嬉しいことであるが、費用もかかるため、国の施策、補助金の活用も必要である。
- ・京セラコミュニケーションシステムのネットワークシステムにより、IOT で子どもの安全安心、土砂崩れの監視、水位センサー、人感センサー、AI ドア開閉検知システム、防犯カメラのシステム活用等々色々な場面での利活用法を学び、本町がどのように活用すればよいかを考えさせられた。

人口減少社会に対応した、まちづくりとスマートシティの将来像

- ・出生数が減少し、人口減少を乗り切るためには、東京一極集中を回避し、地方創生が必要である。
- ・地方創生のためには人材雇用、地域・まちづくり、税制・社会保障等総合的に検討しなければならない。現実を見極めビジョン策定し、IOT、ビッグデータ、AI などを活用して、ソサイアティ 5.0 の社会の実現をしていかなければならない。女性の活躍、外国人も地域で活躍する、地方・起業・まちづくりを進めていく必要がある。

研 修 報 告 書

令和 2 年 2 月 1 4 日

爽風会

代表 安宅 吉昭 様

爽風会

山下 芳一

下記のとおり、研修に参加しましたので報告します。

記

1. 研修先名	(1) 2月4日(火) 南足柄市「協働のまちづくり」 (2) 2月5日(水) 地方創生 EXPO 特別講演(幕張メッセ)
2. 所 感	2月4日(火)「市民協働まちづくり」の取り組み ①「南足柄市自治基本条例」について ・南足柄市近隣の自治体は、自治基本条例をつくっている。 質疑応答の中で本町に、自治基本条例がないことに驚かれていた。 地方分権、地方創生等で地方自治体の果たす役割は多くなり重要かつ多難になる傾向があると思っている。そのような中で、住民の役割、行政の役割、議会の役割を明確にして、住みやすい・住んで良かったと思えるまちづくりをしていかなければならない。 ・自治条例は、行政がつくるものではなく、市民の声を拾い上げ、(行政や有識者も含む)市民が基礎を作り上げなければならない。南足柄市では、公募により 12 名の「自治基本条例づくり市民会議」を設置し、25 回の審議を重ねて、市長に素案を提出している。 ・南足柄市では「自治基本条例」制定後に「市民活動推進条例」及び「市民活動推進条例施行規則」が制定され、市民活動の支援が具体的かつ効果的に行われている。その中には、「地域づくり交付金」もあり、十分でないかもしれないが活動の支援に足りうる交付が 3 年続く(10 万円→5 万円→5 万円)。活きた条例にするには、活動を支援する交付金が必要であるが、資金の工面も考えなければならない。南足柄市では、年間約 4 億円の寄附がある。本町でも条例制定と共にクラウドファンディング等のことを考えていかなければならない。 ・南足柄市では、月 1 回「協働のまちづくり通信」を発行している。市の広報誌に掲載されるのではなく別途の発行であり、市民活動団体、大学、企業、南足柄みらい創りカレッジとの関係構築に役立っている。また、市職員にはイントラネットで配信されるので、各課と関係団体との連携にも寄与している。南足柄市では、イントラネットで職員に情報が発信されているが、これは本町でもいろいろな面で活用できると思う。 ・「南足柄みらいカレッジ」は南足柄市と企業によるプロジェクトからスタートし、将来は地域運営の母体となる組織づくりを目指している。普通このような組織は NPO にすることが多いが一般財団法人にしている。規模と理由を聞いてみると、規模は小さいが「お金を稼ぐため」との即答があった。

NPO で補助金をもとに活動するのではなく、一財にして稼ぐという考えに共感し意気込みを感じた。大半の自治体は財政的に厳しい状況にある。多くの団体が助成金のみで活動を続けようとしているが、自立できる団体は自立していく努力をすべきだと思う。南足柄市の活動団体の中には、3年の助成の後、しっかり自立している団体がある。

- ・南足柄市では部数は少ない(市ホームページでも公開)が毎年「市民活動ガイドブック」が発行され、各団体等の情報が掲載されている。ボランティア団体編、人材バンク・団体サークル編等あり情報力がある。これは、近隣の自治体と公共施設の供用も含めて共有されている。これは、大変すばらしい。

相楽地方の小さな自治体同士が公共施設の共有化・共同利用が進まない中、大きな魅力を感じた。

- ・「市民ボランティア活動」の代表の方々の生の活動事例を伺ったが、市民への箱根ジオラマへの案内、市民への記念写真提供という「魂の入ったボランティア」の活動は、生涯現役の典型として感動をいただいた。

2月5日 幕張メッセ 第3回地方創生 EXPO

①食農を起点とした街づくり実現に向けて

- ・1985年に350万人いた農業従事者が2015年に175万人
1985年の農業法人経営体数0.3万が、2015年に2.3万
農業分野の協働事例が多くなっている。

IoTやハイテク、クラウド、スマホ、ロボティクスを駆使する企業の参入が目立つ。事例紹介では、自治体、JA、大企業の協働であり、多くの収益を上げるための一次産業の協働である。農産物の収穫だけでなく、収穫・加工・販売の6次産業の事例もあり、農業が大きく変わろうとしていることを痛感した。

本町の農業もあり様が問われる時かもしれない。収益の上がる農業を目指すなら事例のように進むのか。差別化・特産化・固有化・ブランド化等で進むのか。

②IoTで実現する子ども・高齢者の見守り事例

- ・Low Power Wide Area (LPWA) とは、消費電力を抑えて遠距離通信を実現する通信方式である。

2022年までに50億台のデバイスがLPWAによって接続される可能性をもつ。これによって公共機能のターミナル化が起こる。電池対応で、機器を設置するので工事が不要になる。

低消費電力、通信距離の長距離化等の強みを活かして、高齢者や子どもの見守り、災害対策機器、防犯カメラ等に利用されている。学研都市の中枢らしく、活用できるハイテクを本町でも活用すべきである。

- ・GPSとスマホを繋いで小学1・2年生の位置情報をつかむ、エリア設定により内に入ったとき、外に出たときの知らせを親のスマホに提供して見守るという事例である。この効用は大きいので学びたい。

③人口減少社会に対応した、まちづくりとスマートの将来像

- ・東京(首都圏)の一極集中は、利点もあるが課題も大きい。
地方創生で大事なことは、プチ東京を目指さない。
- ・人口急減・高齢化・少子化・労働力不足を認識し、人材育成・雇用・地域づくり・社会保障・税制等を総合的に考える。
- ・サステナビリティ(環境・社会。経済の3点からの持続性)が大切である。
- ・AI や IoT の進歩を採り入れる。
- ・気候変動、地球環境問題の深刻化、自然災害のリスク、テクノロジーの発達、ライフスタイルの変化等を認識する。
- ・Society1.0(狩猟社会)→Society2.0(農耕社会)→Society3.0(工業社会)→Society4.0(情報社会)に続く、総ての人とものがIoTで繋がり、AIによる情報提供、ロボティクス、イノベーションによるニーズ対応で1人1人が快適で活躍できる社会を目指す(Society5.0)
- ・コンパクトシティを目指す。
国土交通省 平成27年3月「コンパクトシティの形成に向けて」
コンパクト+ネットワーク→限られた資源の集中的・効果的な利用で持続可能な都市・社会を実現していく。
- ・人口減少時代においてはコンパクトシティの形成の効果は大きいですが、中心部に移動するというのは抵抗もある。医療はどこでも、教育はパノラマ教室、自治体への手続きはどこでもできるというテクノロジーでサービスを満足させるという視点でカバーしていく手法であるという話は説得力がある。

【総評】

EXPO 地方創生2020の講演で多くのことを学んだ。本町では、これから第5次総合計画や各種政策が打ち出されてくるが、大きな視点、サステナビリティから本町のコンパクトシティを考えて活動していきたい。

精華町議会 ~~議会運営委員会~~ 行政視察 次第
爽風会

日 時 令和2年2月4日(火)

午後2時～

場 所 南足柄市女性センター

サポートルーム

1 挨拶

・南足柄市議会

議 長 ほ だ けんいちろう
保 田 建一郎

・精華町議会 「爽風会」

代表者 あ たぎ よし あき
安 宅 吉 昭

2 視察事項

「協働のまちづくり」の取組について

(1) 説 明

(2) 質疑応答

3 閉 会

南足柄市行政視察「協働のまちづくり」の取り組み」質問事項

- ① 「南足柄市自治基本条例」制定に至る背景と今日までの幅広い活動に至るプロセスはどのようなものか。
- ② 南足柄市市民活動推進委員会の活動による協働のまちづくりの形成における効果はどのようなものか。
- ③ 「協働のまちづくり通信」の発行の経緯と関係団体の協力による情報発信の効果はどのようなものか。
- ④ みなみあしがら「市民活動ガイドブック」発行の経緯とその効果はどのようなものか。
- ⑤ 「人財バンク」「団体・サークル」「ボランティア団体」の情報収集とその後のフォローについての具体的なノウハウはどのようなものか。
- ⑥ 市民活動を応援する「地域づくり交付金」助成事業の活用による成果はどのようなものか。
- ⑦ 「協働のまちづくり」の現場で活躍されている活動団体のメンバーの方に直接お会いして、活動の喜びやご苦勞についてお話をお伺いできれば、是非お願いしたいと思います。

なお、視察研修でご説明いただく中での、質問もあるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

京都府精華町議会
爽風会 安宅吉昭

南 足 柄 市 の 概 要

～金太郎のふるさと・全国水の里百選・平成の名水百選～

【沿革】

足柄峠・足柄古道；奈良・平安時代から官道として利用される。

足柄関：東国の入り口（上野国碓氷坂） 古事記「吾妻はや・・・」日本武尊

「万葉集：あしかり 17 首」「更科日記」 関本（坂本）の宿

東海道（1601 年）（箱根峠越え）が出来てから足柄道は脇往還（関所 2 箇所）

良質で豊富な水・空気。東京から近距離；富士フイルム本社工場が昭和 9 年に進出

関連子会社集積、人口増。S47 市政施行（人口 32, 569 人→H15；44, 440 人）

アサヒビール神奈川工場開設（H14 年）

1. 人口・立地

H27. 10. 1 43, 328 人（男 21, 319 人、女 22, 009 人）；人口減少率 1. 6%（5 年間）

・神奈川県最小の市・都心から 80 km・通勤・通学可能範囲？

・消滅可能性都市ではないが、予想以上に減少が進んでいる。

R1. 7. 1 41, 964 人（人口減少率 3. 1%；平成 27. 10. 1 との比較）

・世帯数は増加・世帯人数は減少（S50：9, 526 世帯 3. 88 人→H30：16, 551 世帯 2. 56 人）

・年齢構成；年少人口・生産年齢人口減少、老年人口の増加

2. 面積 77. 12 km²；森林約 52km²（66%）、農地 7. 6 km²（田 1. 7 km²、畑 4. 9 km²）

（都市計画用途地域；市街化地域 7. 1km²、市街化調整地域 70km²）

3. 観光 大雄山最乗寺・アサヒビール神奈川工場・金太郎伝説（夕日の滝・生家・遊び石等）

あしがら花紀行（河津さくら・春めき・ハナアオイ・リコリス・酔芙蓉・ざる菊等）

観光客 934, 000 人/年（23 位/33 県内市町村）、箱根 2, 000 万人

南足柄市と箱根町を連絡する県道の開通（R2・3 月）

（仮称）「道の駅 金太郎のふるさと」開設（R2・3 月開設）

；地場産品加工・販売、観光情報等発信、地域交流等

4. 農業 農地面積 7. 6 km² 耕地面積 6. 6 km²・耕作放棄地 1km²

S30 年代～S40 年代；温州みかん最盛期 転換作物 ；お茶→足柄茶

農業耕作者の高齢化と担い手不足、農業だけで生計を立てられない。

耕作放棄地が山間部に近い。新規就農が困難→一部市民農園として貸出し
農家数 1,024 戸 (523 戸自給的) ・就業者数 721 人 (H28)

5. 地域経済 製造品出荷額の減少 商業：購買力の市外への流出

地域柄市内の購買力はもともと低かった。

足柄産業集積ビレッジ構想

「豊富な水、平坦な農地に恵まれ、大消費地に隣接している」

6. 財政 市税収 69 億円 (H30) *H4 : 108 億円 財政力指数 0.91 (神奈川県平均)

職員数 296 人 (平成 30 年) 人口千人当たり 6.26 人 (全国平均 6.4 人、類団 9.7 人)

経常収支比率 H28 ; 99.34% → H29 ; 96.3% (全国平均 92.8%、類団 91.8%)

7. シティセールス

ちょっと田舎で、ちょっと都会。“ちょうどいい”が心地良い。水も空気も一級品。人もコミュニティもかなりの良品。様々な要素が反応して、「わくわくがわく」

田舎ぐらしなら「トカイナカ」；都市の機能と田舎の自然をあわせもつ町

(大都市 (100 万人以上) 1.5 時間以内・衣 (医) ・食・住がそろう

・都道府県 ; 1 長野、2 北海道、3 静岡、4 福島・5 沖縄

・市町村 ; 1 南足柄 2 三田 (兵庫) 3 館山 (千葉) 3 神栖 (茨城) 5 熱海 (静岡)

出典 : 50 代からの暮らし応援マガジン「コレカラ」 (リクルート発行) 2010.6 月号

8. 協働/連携/地域活性化

県西地域活性化プロジェクト : 2 市 8 町「未病を改善する」県西地域の食・運動・癒し

箱根ジオパーク (2 市 3 町) : 地域の自然・歴史・文化←地質的な新しい観点で再発見

広域行政 ; 広域消防 : 2 市 5 町 (小田原市へ事務委任)、ごみの広域処理の検討 ; 1 市 5 町

南足柄みらい創りカレッジ : 産官学民による地域活性化 (富士ゼロックスとの協働)

9. 公共施設概要

幼稚園 5 園、小学校 6 校、中学校 3 校 (完全学校給食・自校制)

文化会館 (大ホール 1100 人、小ホール 292 人)

運動公園 14.1ha (野球場、テニスコート 8 面、多目的広場等)

体育センター (総合体育館、テニスコート 4 面、温水プール、弓道場、相撲場)

中部公民館、福沢・岡本コミュニティセンター

図書館 (本館・分室 2)、女性センター、パークゴルフ場 2、丸太の森、郷土資料館

協働のまちづくり (企業・団体・大学等) 協定・協力事業等一覧 (H29以降)

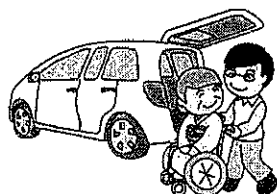
	名称(事業名)	相手方(パートナー)	内 容	締結年月日
①	南足柄みらい創りカレッジの運営に関する協定	富士ゼロックス(株)	地域課題解決・地域活性化(地方創生);協働交流・人材育成・防災等の領域でプログラムを実施	H29.5.15
2	災害時における一般廃棄物収集運搬訓練の実施	広域一般廃棄物事業協同組合	協定に基づく訓練(災害時の避難所の公衆衛生の確保)	H30.2.13
③	災害時における福祉避難所としての施設利用等に関する協定	(社福)小田原福祉会	災害時要支援者の二次的避難所としての活用2施設(市内9施設は既に締結済)	H30.3.9
5	地域活性化包括連携協定	(株)セブンイレブン・ジャパン	地方創生;住民福祉の向上、防犯対策、観光支援、文化・スポーツの振興	H30.5.10
④	包括連携に関する協定	国立大学法人横浜国立大学	地域活性化、南足柄市の特性を生かした教育プログラム開発、都市整備等の政策立案の協力等	H30.5.15
⑥	包括連携に関する協定	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	地方創生;市民の暮らしの安心・安全、防災・災害対策、地域社会の安全・活性化	H30.12.6
⑦	包括的連携に関する協定	市内3郵便局	安全・安心暮らしの実現、地域経済の活性化、女性活躍推進、市民サービスの向上	H30.12.10
8	災害時緊急放送の協力のに関する協定	FM小田原(株)	本市が要請した災害情報の優先的放送	H31.3.1
9	再生可能エネルギーの地産地消に関する協定	ほうとくエネルギー(株)・湘南電力(株)	再生可能エネルギーの積極的活用	H31.3.19
10	大規模災害時等における支援協力に関する協定	(公益社団)隊友会神奈川支部	災害時に市内の道路・橋梁等の情報を画像に収め、この地域を管轄する陸上自衛隊に送信する。	H31.3.20
11	空き家等対策の推進に関する協定	(公益社団)神奈川宅地建物取引業小田原支部	空き家バンク物件の仲介業者の選定を市が所有者に替わって依頼可能となる。	H31.3.27
12	行政告知報道の再送信にか関する協定	(株)ジェイコム	本市の防災行政無線情報がジェイコムの防災情報サービス(放送受信端末・TV)でも知ることができる。	R1.9.13
13	災害時における仮設トイレの供給及び運用等に関する協定	広域一般廃棄物事業協同組合	災害発生時における避難所の仮設トイレの迅速な確保	R1.11.22
14	市民の健康増進に関する連携協定	明治安田生命保険	健康寿命の延伸に向けた連携事業の推進	R1.12.16

1. 保健・医療・福祉

<団体名>	みんなみ・ひなた	代表者 氏名	清水 勝子
<活動目的>	市内の高齢者等の引きこもりを防ぎ、つながりを築くことと仲間作り	連絡者 氏名	清水 勝子
		連絡者 電話	74-7211
<活動内容>	市内の独居高齢者等を対象におしゃべりの場を提供する。 活動日： 週1回、金曜日10時～11時半 第3金曜日は食事会 12時30分迄 （荒天候の場合中止あり） 場 所： 広町18番地（広町市営住宅15-3） 対象者： 活動の場所まで自分で来れる方	世帯人数	5名
		設立年月	2012年3月
		活動拠点	広町市営住宅
		活動日	毎週金曜10時～
		入会金	なし
		会費	1回100円



<団体名>	NPO法人 車友の会	代表者 氏名	土屋 義徳
<活動目的>	在宅で援助が必要な高齢者や障害者その他の手助けを必要とする人々に移動サービスを提供し、健康で安心して暮らして行ける街づくりに寄与する	連絡者 氏名	土屋 義徳
		連絡者 電話	73-0392
<活動内容>	一人で公共運送を利用出来ない方の通院、買い物等の手助けとして、自家用車（有料）で自宅から目的地までの送迎を行う	会員数	74名
		設立年月	2005年10月
		活動拠点	近隣地域
		活動日	必要な時
		入会金	1,000円
		会費	1,000円/年



<団体名>	南足柄市録音奉仕会 やまびこ	代表者 氏名	小瀬村 惇子
<活動目的>	視覚障害者への音声訳	連絡者 氏名	小瀬村 惇子
<活動内容>	・市広報の録音 ・議会だよりの録音 ・会員による声のたより「つぼみ」の録音（年2回） ・プライベートサービス対面朗読（市図書館にて3回/月） ・社協みなみあしがら広報版 ・福祉体験講座 南足柄中学校、足柄台中学校 福祉学習「音声訳」	連絡者 電話	74-2802
		会員数	10名
		設立年月	1988年
		活動拠点	りんどう会館
		活動日	毎月第4金曜
		入会金	なし
		会費	1,000円/年





ゆるやかにつながるコミュニティ

南足柄100人カイギ

100人カイギとは

「100人カイギ」は、街で働く100人を起点に人と人をつなぎ、都市のあり方や価値の再発見を目的とするコミュニティです。

ルールは簡単。

「毎回、身近で面白い活動をしている5名のゲストの話を聞く」

「ゲストが100名に達したら解散する」

100人100様の生き方に触れることで、いつもの景色が少し違って見えてきます。

《開催予定》

10月4日(金) 18:30~20:30 南足柄市女性センター

10月11日(月・祝) 9:30~11:30 南足柄市女性センター

(開催未定ですが全20回の開催となります)

Facebook ページにて情報発信中!!

Facebook で「いいね！」をクリックお願いします



南足柄100人カイギFacebook ページ

主催 南足柄100人カイギ運営事務局

南足柄みらい創りカレッジ

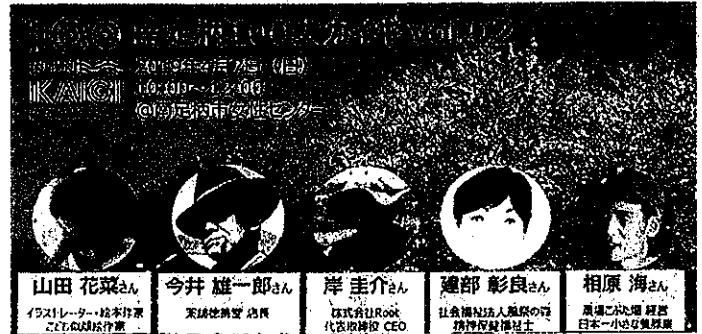


南足柄100人カイギ

ゆるやかにつながるコミュニティ

南足柄100人カイギ vol.01

2019年3月10日(日)
10:00~12:00
@南足柄市女性センター



Facebook で「いいね！」をクリックお願いします

南足柄100人カイギFacebook ページ



主催 南足柄100人カイギ運営事務局
南足柄みらい創りカレッジ



市民×産官学で地域課題に取り組む

南足柄みらい創りカレッジ



「南足柄みらい創りカレッジ」とは

市民と共に産官学が協働し、地域課題の解決に取り組む組織です。南足柄市と富士ゼロックス株式会社は、平成27年から市民の皆様との対話を通じて地域のことを考える取組み「南足柄みらい創りプロジェクト」を立ち上げ、約2年間にわたって地域との関係性強化とプロジェクト活動を推進してきました。この取組みを引継ぎ、将来は地域運営の母体となる組織を目指して、平成29年5月28日に「南足柄みらい創りカレッジ」を設立しました。

ここでは平成30年度のみらい創りカレッジのプログラムの内容と29年度の取組みについて紹介します。

平成30年度のプログラム概要

南足柄市の総合戦略に準拠し、下記の3つの領域でプログラムの開発、実践を行います。

プログラム領域	プログラムの概要
交流・協働 市民協働によるまち創り活動	・地域コミュニティ組織の活動や協働事業の支援を通じて、地域支え合いのまちづくり活動の活性化を図る。（地藏堂地域の活性化・ママまつり・大雄山駅前フェスティバルなど） ・高齢者が安心して暮らせるまちづくりの実現を目指して、引き続き「シェアハウス」や「オレシジネット」の活動（裏面参照）を支援していきます。
人材育成 地域創生を牽引する人材育成	・地域課題を解決するプログラム；SDGsを念頭に置いた県西社会人向けプログラムの実施 ・イノベーションサマーカレッジ2018；高校生のための「大学生、留学生との交流」（対象；県西地域の高校生18名～おだわら市民学校連携講座～） ・横浜国立大学夏季集中講座「実践 地域と起業」支援（対象；横浜国立大学生・市内大学生25名）
防災 大規模災害時の広域連携における研究	・広域の防災力強化 広域防災のワークショップと第2回広域防災研究会の開催 ・地域防災力の強化；防災アカデミーの開催 地域の人々が防災意識を継続的に高め合うことを通じて、自主防災組織のより円滑な運営と実践を支援する

※「みらい創り」は、地域に関わる皆様と富士ゼロックスの協働による地方創生活動の総称であり、富士ゼロックスの登録商標です。）



平成29年度活動紹介

■高齢者が安心して暮らせるまちづくり；シェアハウス・オレンジネット

高齢者と各世代が快適で安心感の持てる暮らしを実現する「シェアハウス」を目指し、都市の若者と高齢者が共に農作業を行い、交流を深めました。

また、認知症の方を地域で見守るセーフティネットを構築する「南足柄市オレンジネット」の実現に向けて活動しています。3月には認知症高齢者に職員が扮し、オレンジマークとQRコードの付いたシールを身に付け、早期発見のシステムづくりの実証実験を行いました。

■イノベーションサマープログラム

地域の将来を担う地元の高校生・大学生と首都圏の大学生とで学びあう、イノベーション人材育成プログラムを昨年の8月に3日間の日程で足柄ふれあいの村で実施しました。イノベーションを生み出す作法を学んだ上で、地域の課題を真剣に考えることができる人材の育成に取り組み、地域の活性化策を市長に提言しました。

■キッズサマーキャンプ

市の総合戦略の骨子である「若い世代を応援し希望をかなえる」のテーマに基づき、市内の子どもたちと市外の子どもたちの交流を深めるとともに市の将来をともに考え、「こども宣言」を作成し発表しました。

■魅力あふれる共生社会の実現支援

専修大リーダーシップ開発プログラムと連携し、「魅力あふれる共生社会の実現支援」に向けた課題探索と地域の協力者との関係作りを目指す企画をコーディネートしました。

■広域防災研究会

「広域防災に繋がる地域防災力強化」を目的とし、県西2市8町の防災職員や消防職員、消防団、防災リーダー、防災科学技術研究所、神奈川大学などの防災の関係者が一堂に会し、「防災意識をどう高めるか」に対する課題共有と活動の方向性を確認することを狙いとして岡本コミュニティセンターで開催しました。この研究会はテーマを深堀しながら毎年開催していく予定です。岡本コミュニティセンターは地域防災を考える拠点施設としての活用を考えています。

■魅力発信プログラム

南足柄の価値向上のため、街の魅力を高めるテーマを選定し、最も効果的と想定される形で発信を行うプログラム。昨年度は、テーマの選定までを夏季のイノベーションサマースクールで実施。テーマ(Ten具そば)の発案を受け、新たな名産品の開発に着手しました。



農業体験



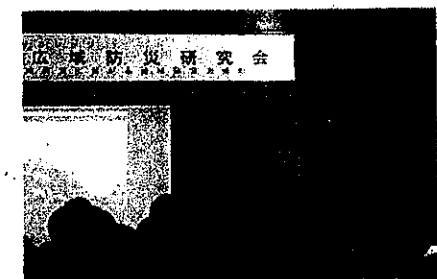
南足柄市オレンジネット



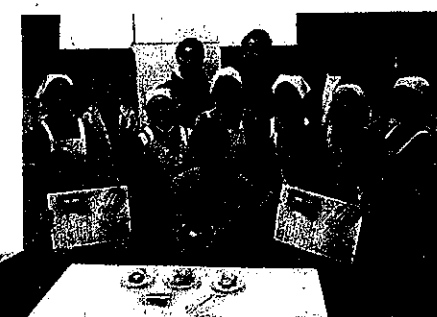
イノベーションサマープログラム



キッズサマーキャンプ



広域防災研究会



魅力発信プログラム



市民×産官学で地域課題に取り組む

南足柄みらい創りカレッジ



イノベーションサマーカレッジ（弘西寺ルートファームにて）

「南足柄みらい創りカレッジ」とは

市民と共に産官学が協働し、地域課題の解決・地域の活性化に取り組む組織です。南足柄市と富士ゼロックス㈱は、平成27年から「南足柄みらい創りプロジェクト」をスタートし、約2年間にわたって地域との関係性強化とプロジェクト活動に取り組みました。この取組みを引継ぎ、将来は地域運営の母体となる組織を目指して、平成29年5月に「南足柄みらい創りカレッジ」を設立しました。

ここでは平成31年度のみらい創りカレッジの活動概要と平成30年度の取組み結果について紹介します。

平成31年度のプログラム概要

南足柄市の総合戦略に準拠し、下記の4つの領域でプログラムの開発、実践を行う予定です。

プログラム領域		プログラムの概要
交流・協働	市民協働によるまちづくり	・地域内・地域間ネットワークの形成とカレッジの活動内容の内外へのPR。 100人カイギin南足柄（順次小田原市、8町に展開する予定） オープンカレッジ（2日～3日間開催予定） ・コミュニティの強化及び形成 私たちのまちのSDGsを理解しよう。高齢者にやさしいまちづくり。 女性が活躍するまちづくり。防災訓練と連携したまちづくり。
人材育成	地域創生を牽引する人材育成	・社会人対象：SDGsを念頭に置いた県西地域実践Field II ・高校・大学生対象：地方創生、国際交流を通じた次世代人材育成プログラム ・中学生対象：地域活性化を目指した芸術・音楽創造プログラム ・小・中学生対象：プログラミング体験講座：算数の楽しさを学ぶ：地域の再発見教育等 ・横浜国立大学夏季集中講座「実践地域と起業」支援
防災	大規模災害時の広域連携における研究	・広域防災に繋がる地域間連携の基礎づくり 第3回広域防災研究会の開催（地域間共助の推進）
産業	市民・産業界等の連携による事業創造	・産業界と地域を巻き込んだリビングラボ、実証実験 実証実験を行う地域や事業を特定し、プロトタイプを試行する。

※「みらい創り」は、地域に関わる皆様と富士ゼロックスの協働による地方創生活動の総称であり、南足柄みらい創りカレッジの活動もその一環として行われます。

平成30年度活動紹介

心と体が潤う場

南足柄みらい創りカレッジ



■高齢者が安心して暮らせるまちづくり；シェアハウス・オレンジネット

高齢者と都市の若者の交流の場となる「シェアハウス」を目指し、両者が共に農作業（お茶刈り・ミカンもぎ）を行い、交流を深め合う取組みを30年度も矢倉沢地区で行いました。また、行方不明となった高齢者の方を早期に発見するための「南足柄市オレンジネット」の取組みを進めています。31年3月には認知症高齢者に3人の市民が扮し、オレンジマークの付いたシール（地域包括支援センターの連絡先が記載）を身に付け、早期発見のシステムづくりのため、大雄山駅周辺で2回目の実証実験を行いました。

■南足柄イノベーションサマーカレッジ

地域の魅力を新しい切り口と国際的な目線から再発見し、地方創生に繋がるアイデア出しを行うプログラムを実施しました。小田原市片浦地区と南足柄市矢倉沢地区の持続的な地域づくりをテーマに、地元の高校生・大学生と留学生が学びあう、イノベーション人材育成プログラムを8月に3日間の日程で行いました。地域の課題を真剣に考えることができる人材の育成に取り組み、地域の活性化策を市長等に提言しました。（おだわら市民学校連携事業）

■第2回広域防災研究会

「広域防災に繋がる地域防災力の強化」を目的とし、県西2市8町の防災職員や消防職員、自治会、防災科学技術研究所、神奈川大学などの防災の関係者が一堂に会し、「防災意識をどう高めるか」に対する課題共有と活動の方向性を確認することを狙いとして岡本コミュニティセンターで開催しました。今回は生活している地域・郷土の地形を良く知り、平時の減災活動に繋げていくとともに、「災害に行政境はない」という認識から、近隣の自治会を巻き込んだ活動を目指していくことが確認されました。

■地域防災力の強化

岩原・沼田地区の住民を対象に、非常食セミナー、防災ゲーム（クロスロード）、ダンボールジオラマの製作等を内容とする防災セミナーを6回開催し、地域防災力を高める取組みを実施しました。また、津波等に備える地区防災計画策定に向けた取組を進めるため、9月の総合防災訓練の実施日に合わせ、岩原小学校で同地区の自治会役員や岡本中学校の生徒を対象にワークショップ「ダイレクトロード」を行い、内閣府主催の防災イベントで事例発表を行いました。

■オープンカレッジ

これまでの南足柄みらい創りカレッジの活動の紹介やこれからの取組みについて、「見て、聞いて、参加する」イベントを岡本コミュニティセンターで12月1日、2日に開催しました。主な内容は、カードゲーム2030SDGs体験会、算数クイズ大会、100人カイギ体験会、プログラミングソフト（スクラッチ）の体験会などです。また、南足柄及び遠野みらい創りカレッジの取組みのパネル展示も行い、250人の参加者がありました。その後、この100人カイギ体験会に参加したメンバーが中心となり、31年3月から南足柄100人カイギが行われています。

■みんなで学ぼうSDGsプログラム

持続可能な世界のために2030年までに世界のみんなで達成しようと国連で決めた17の目標である「SDGs」。南足柄みらい創りカレッジでは、県西地区の2市8町にSDGs達成に向けた様々な解決策を試すことができる「実験フィールド」を3年計画で作る予定です。30年度はその1年目として、県西地区の社会課題をこの地区の人たち（社会人）と共有しあうプログラムを行いました。



農業体験（お茶刈り）



イノベーションサマーカレッジ



広域防災研究会



ワークショップ（ダイレクトロード）



オープンカレッジ



SDGsプログラム

回 覧

南足柄市市民活動 ☆スマイルフォトだより☆ (No. 2)

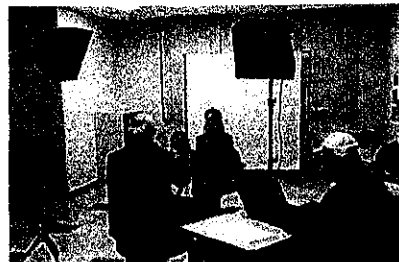
2017.10.1発行
発行責任者：碓井一海

～撮影申し込みから完成品DVD受け取り迄の流れを写真で紹介～

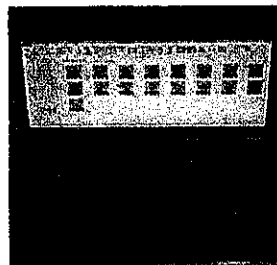
- 1) 撮影希望は下記連絡先にお問い合わせ致します。
井上俊幸 ☎090-6948-1081又は[井上不在時：碓井一海 ☎ 0465-74-4586]
【電話で日程(撮影日と開始時間を相談させていただきます。撮影日程は2回/月で撮影料金は1,000円/人です】
- 2) 撮影当日までに希望される方へのお願いしたいこと。
撮影当日にポーズや笑顔の表情はなかなか作れるものではありません。事前にご自宅でお好きなポーズや笑顔の表情を確認され本番にお望み下さい。できるだけ素敵な表情での撮影 をさせていただきます。一般的には、左右どちらかに少し向きを変えた体勢が一般的に好まれるようです。
- 3) 撮影当日
《受付》 予約された時間に“女性センター3階ホール”へお越しください。申込み用紙に必要事項(氏名・住所・連絡先・電話番号等)を記入して頂き、撮影料金1,000円頂きます。
《撮影》 通常モードとソフトフォーカスモードの2種類で撮影します。
《画像の確認》 撮影した画像をパソコンで確認、DVDに取り込む画像を決めて頂きます。OKであれば撮影終了です。
- 4) 完成DVDのお渡し方法と確認
撮影から10日程度で完成したDVDをお渡しできます。ご自宅でDVDの動作確認をお願い致します。不備や不明な点がございましたら撮影申し込み時の連絡先までお電話ください。



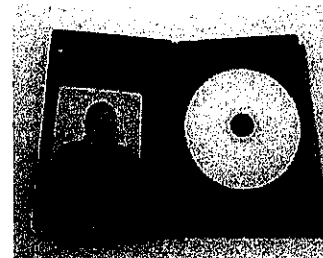
【受付風景】



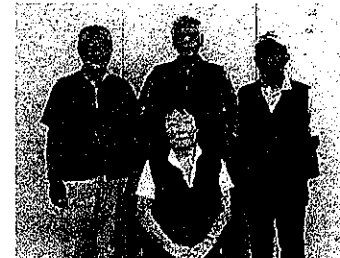
【撮影風景】



【画像の選択】



【完成品DVD】



【活動ユニフォーム】

出前 南足柄観光ガイド 始めました！



出前って何??



市内の観光スポットの写真をプロジェクターでスクリーンに映し出し、ガイドが説明を加え、高齢やその他の理由で現地に出向けない方に見ていただく、観光ガイドの出張サービスです！

お任せください！



<時間>

午前10時～12時

午後13時～18時(原則)

<対象> 南足柄市内の、

老人施設(デイサービス、ホーム)

老人会 福祉会 自治会(公民館活動)

学校 子供会 その他のグループ

<内容>

1コース30分程度で下記4ヶ所の観光コースがあります。単写真をプロジェクター投影し、ベテランガイドがご案内します。

<設備>

ノートパソコン、プロジェクター、スクリーン等は当方で持参いたしますので、コンセントと視聴スペースがあればOKです。

<料金>

1コース 500円 複数コース選択可能

